

## 原子力事故は子々孫々まで続く深刻な問題！

3月11日の東日本大震災から1ヶ月半が経ちました。死者14000人、行方不明者13660人(4月20日現在、朝日新聞社調べ)を始めとして被害の全貌が明らかにならないほどの甚大な被害をもたらした巨大地震ですが、より深刻なのが連日テレビ・新聞等の報道で食品・水道水・海水・土壌・大気等の放射能汚染が伝えられている福島第一原発事故です。1ヶ月半経っても事故の収束どころか4月12日には国際原子力事象評価尺度(INES)の暫定評価値をレベル7「深刻な事故」に引き上げられるなど深刻な状況は続いています。

レベル7と言えば、ちょうど25年前(1986年)の4月26日ソビエト連邦(現ウクライナ)チェルノブイリ原子力発電所4号炉で史上最悪の原子力事故がおきました。同4号炉は事故直後に石棺というコンクリート建造物で覆って放射性物質を封じ込めましたが、現在石棺の老朽化が著しく、雨水が石棺内部に侵入して原子炉内部を通して放射性物質を土壌に拡散しており、石棺の崩壊による放射性物質の飛散と共に心配されています。

つまり25年経ってもいまだに根本的な事故の収束に至っていないということです。このように原子力事故の収束には、非情に長い期間を必要とし、子々孫々まで人々を苦しめるものなのです。

## 関西も危ない！？関西でも甚大な被害の可能性が！？

福島第一原発事故は、私たちの住む関西から遠く離れており、直接的な放射性物質の影響を受けていませんので、なかなか原子力事故の実感がありません。しかし、現実に被害こそ出ていませんが福島第一原発事故に匹敵あるいはそれ以上の危険性がある原発が関西の近くにあります。

それは、誰もが聞いたことのあると思われる福井県敦賀市にある高速増殖炉「もんじゅ」です。「もんじゅ」が現在どういう状況なのかを知っている人は少ないのではないのでしょうか？

「もんじゅ」は、1995年にナトリウム漏洩火災事故を起こし、昨年5月に運転再開に至るまで長年止まっていました。そして運転を再開して間もない昨年8月に原子炉の炉内中継装置(燃料交換装置の一部)が原子炉内に落下して燃料の交換が出来ない状況になり、24回以上も対応策を講じていますがことごとく失敗し、運転も廃炉も出来ない状態で、事故の收拾の見通しは立っていない状況にあります。

この炉内中継装置の取り出すことは、対応策がことごとく失敗しているように大変難しい作業らしく、万が一作業ミスでナトリウム火災や原子炉の暴走が起きると福島第一原発事故が比べられないほどの甚大な被害になる可能性が予想されているそうです。

ひとたび原発事故が起きたら私たちの生命と生活が脅かされることは福島原発事故が証明しています。起きてからでは完全に手遅れです。

だからこそ日頃から原発問題に関心を持ち、行動していきましょう！